

OECD 国際成人力調査 (PIAAC)

—— 第2回調査のポイント ——

Programme for the International Assessment of Adult Competencies

1. PIAAC 第2回調査について	2
2. PIAAC 第2回調査の結果概要	4
(1) 読解力	4
(2) 数的思考力	5
(3) 状況の変化に応じた問題解決能力	6
(4) 習熟度・得点の分布	7
(5) 第1回調査との比較	8
(6) 成人の属性やスキル等との関係	9
参考資料	16
参考① 国際成人力調査 (PIAAC) について	16
参考② 具体的な問題例	18
参考③ PIAAC第2回調査の全体概要	23
参考④ PIAACの国際比較	24

1. PIAAC第2回調査について

OECD国際成人力調査（PIAAC）とは

- ◆ **16歳から65歳の成人を対象に**、各国の成人の社会生活で求められるスキル（**成人力**）を測定するとともに、スキルと年齢、学歴、所得等の社会経済的背景との関連や影響を調べるOECD主催の国際比較調査
- ◆ 平成23（2011）年に第1回調査、**令和4（2022）年に第2回調査を実施**
第2回調査には、31か国・地域から約16万人が参加（調査期間：令和4年9月～令和5年8月）
日本では**5,165人が参加**（調査期間：令和4年9月～令和5年4月）
- ◆ 第2回調査では、第1回調査で測定した「**読解力**」、「**数的思考力**」のほか、「ITを活用した問題解決能力」に代わる「**状況の変化に応じた問題解決能力（Adaptive Problem Solving : APS）**」の**3分野のスキルを測定**。「読解力」と「数的思考力」については、それらの基礎的な要素である「コンポーネント」の調査も実施。
- ◆ **対象者の自宅等において対面方式で調査を実施**。前回のコンピュータ及び紙使用による調査からタブレット使用の調査に移行。日本語による調査ができない対象者には、今回初めて簡易な「ドアステップ・インタビュー」を別途実施。
- ◆ 調査結果は、スキル毎に0～500点の得点と、得点をスケール化した以下の習熟度レベルで評価
 - ・「**読解力**」と「**数的思考力**」は**6段階**（高い順に、レベル5からレベル1、レベル1未満）
 - ・「**状況の変化に応じた問題解決能力**」は**5段階**（高い順に、レベル4からレベル1、レベル1未満）

3分野のスキルの概要

※スキルの正式な定義は4～6ページ参照 具体的な問題例は18～22ページ参照

書かれたテキストにアクセスし、理解し、評価し、熟考すること

読解力

（問題イメージ）

- ・ 園児の親を対象とした「幼稚園のルール」という文書を読み、登園時間に関する情報が記載されている部分を解答
- ・ パンとクラッカーが古くなった時の変化、そのような変化が起きる過程などについての記事を読み、解答欄の文章が正しいかどうか解答

数学的な内容、情報、アイデアにアクセスし、利用し、批判的に推論すること

数的思考力

（問題イメージ）

- ・ -20°C から -15°C の温度が保たれている冷凍室について、提示された3つの温度が許容範囲内か解答
- ・ 寝室の図面や壁紙の幅・長さなどの情報を基に、必要な壁紙のロール数を計算できる「壁紙計算機」の4つの入力項目に適切な数値を入力

解決方法がすぐに利用できない、動的な状況において、自分の目標を達成する能力

状況の変化 に応じた問題 解決能力 (APS)

（問題イメージ）

- ・ 午前8時30分までに子供を学校に送り、買い物をすませて9時30分までに帰宅するための最速ルートを地図上で解答
- ・ 買い物に行く予定の店が閉店したとのニュースを受けて、別の店で買い物をすませて9時30分までに帰宅するための最速ルートを地図上で解答

1. PIAAC第2回調査について

日本についての結果概要（ポイント）

3分野（読解力、数的思考力、状況の変化に応じた問題解決能力）について

- ◆「読解力」及び「数的思考力」の平均得点は、**参加国中第2位**（第1回調査は第1位）
- ◆「状況の変化に応じた問題解決能力」は、**参加国中第1位相当**
- ◆3分野いずれも、低い習熟度（レベル1以下）の割合は**参加国中最少**、高い習熟度（レベル4以上）の割合は**参加国中第2位**（第1位フィンランド）
- ◆成績下位10%値と上位10%値を比較すると、**得点の差は3分野全てにおいて小さい**

第1回調査との比較

- ◆「読解力」、「数的思考力」の**平均得点**について、**統計的に有意な変化はない**
- ◆「読解力」は、低い習熟度（レベル1以下）の割合が増加、「数的思考力」は、高い習熟度（レベル4以上）の割合が増加

成人の属性やスキル等との関係

- ◆**いずれの年齢層でもOECD平均を上回る世界トップレベルの習熟度**
- ◆**16～24歳の平均得点**について、「数的思考力」で**参加国中第1位**、「読解力」及び「状況の変化に応じた問題解決能力」で**参加国中第2位**
- ◆3分野いずれも、**学歴が高いほど習熟度は高い**
- ◆習熟度、教育年数、専攻より、**勤務経験、個人特性（年齢・性別等）が賃金に影響**

3分野の上位10か国・地域

読解力	平均得点	数的思考力	平均得点	状況の変化に応じた問題解決能力	平均得点
フィンランド	296	フィンランド	294	フィンランド	276
日本	289	日本	291	日本	276
スウェーデン	284	スウェーデン	285	スウェーデン	273
ノルウェー	281	ノルウェー	285	ノルウェー	271
オランダ	279	オランダ	284	オランダ	265
エストニア	276	エストニア	281	デンマーク	264
フランドル地方（ベルギー）	275	フランドル地方（ベルギー）	279	エストニア	263
デンマーク	273	デンマーク	279	フランドル地方（ベルギー）	262
イングランド（英国）	272	スイス	276	ドイツ	261
カナダ	271	シンガポール	274	カナダ	259
				イングランド（英国）	259
OECD平均	260	OECD平均	263	OECD平均	251

〔 前回1位 〕

〔 前回1位 〕

〔 前回から調査内容変更 〕

2. PIAAC第2回調査の結果概要

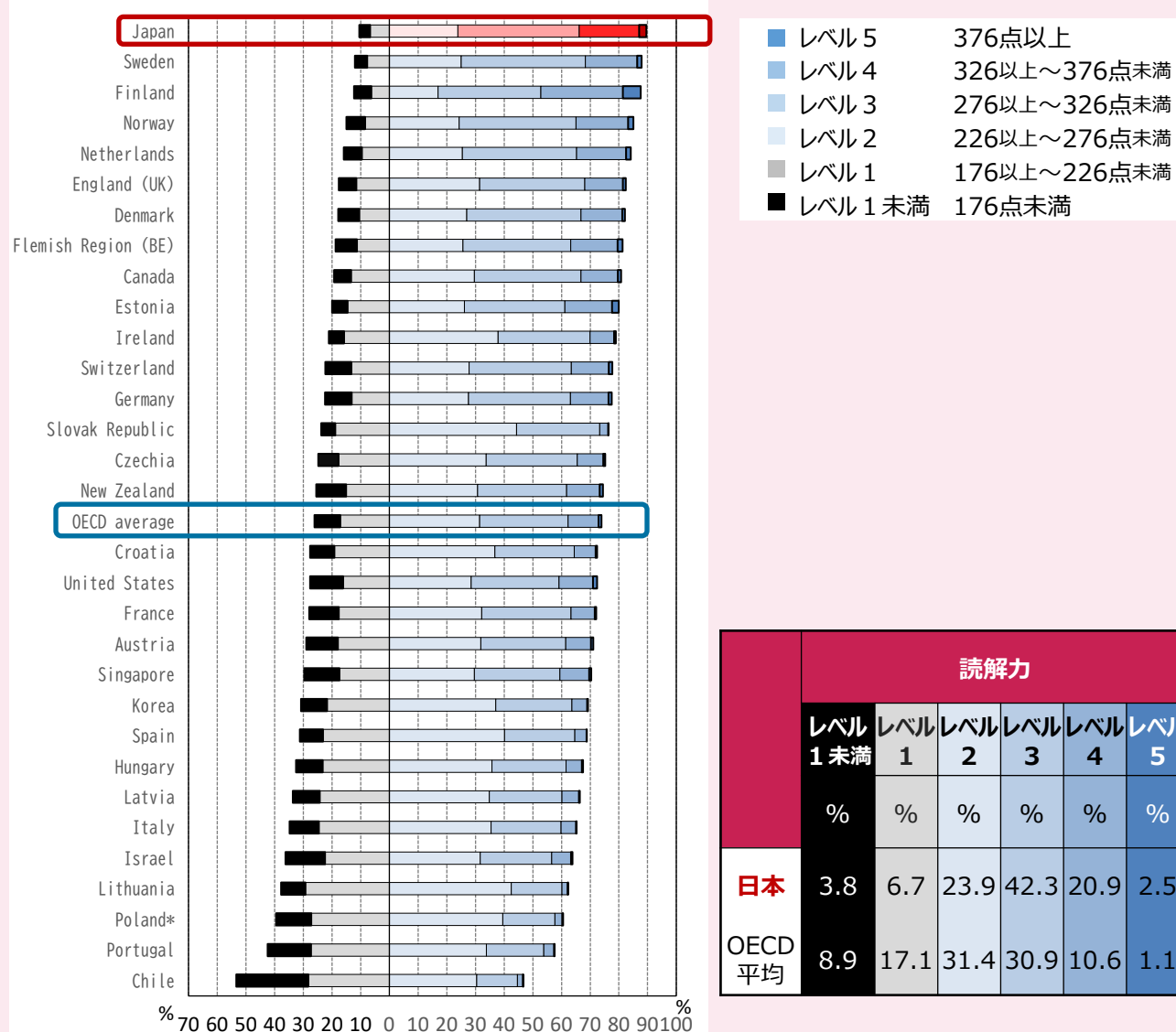
(1) 読解力

「読解力」は、自分の目標を達成し、知識と可能性を伸ばし、社会に参加するために、書かれたテキストにアクセスし、理解し、評価し、熟考すること

- ◆日本の「読解力」の平均得点は289点で**参加国中第2位**、OECD平均は260点
- ◆低い習熟度（レベル1以下）の割合は**参加国中最も少なく**、高い習熟度（レベル4以上）の割合は**参加国中第2位**（第1位フィンランド）

成人の読解力の習熟度レベル別分布（16歳～65歳）

※レベル1以下の成人の割合が少ない順に上から国を並べたもの



レベル1以下の成人

レベル2以上の成人

注1 言語の問題からドアステップ・インタビューのみを実施した成人も含む。

注2 *は一部のデータが欠損している国。（次頁以降同様）

2. PIAAC第2回調査の結果概要

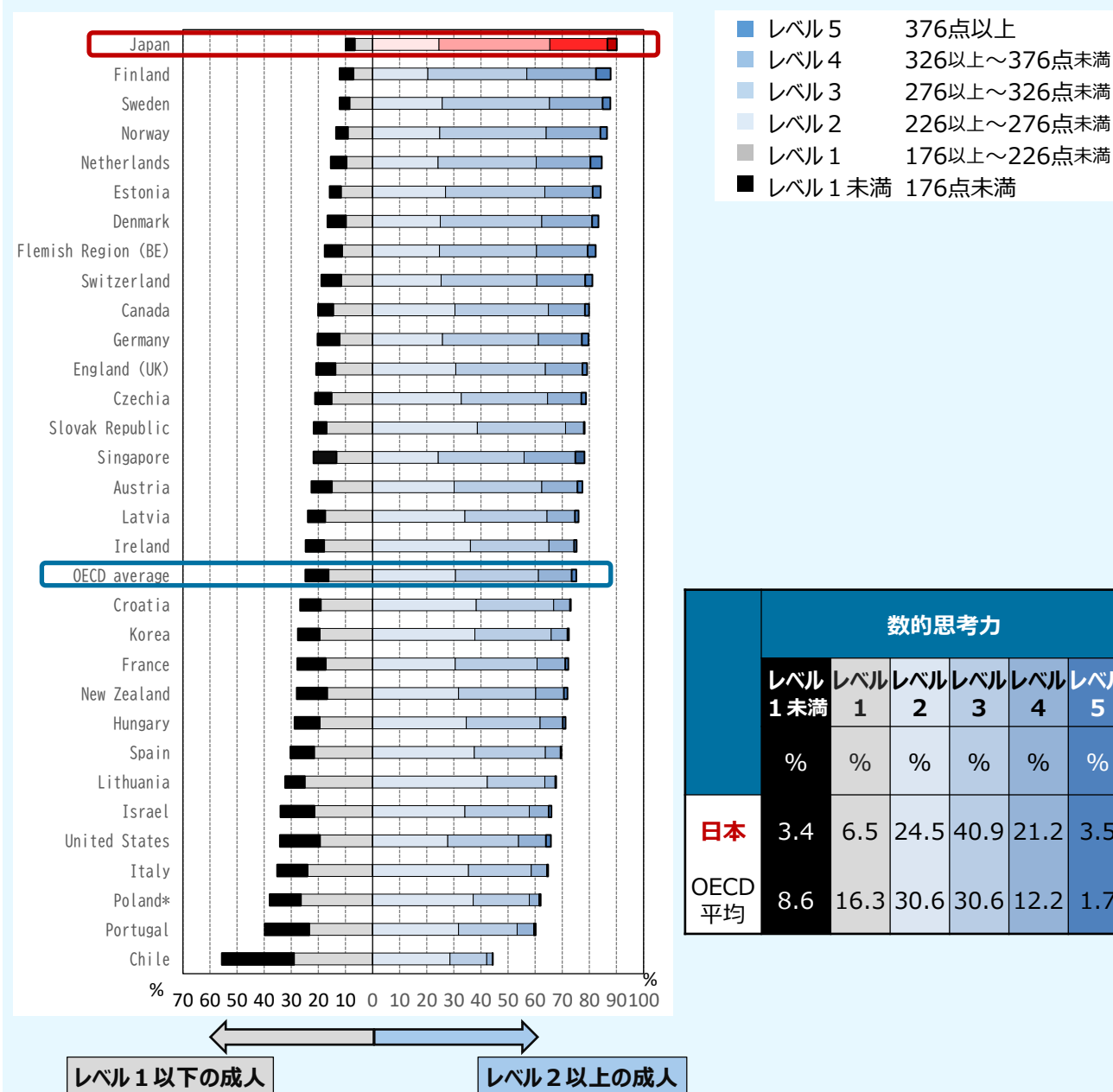
(2) 数的思考力

「数的思考力」は、成人期における様々な状況での数学的な要求に取り組み、対処するために、複数の方法で表現された数学的な内容、情報、アイデアにアクセスし、利用し、批判的に推論すること

- ◆日本の「数的思考力」の平均得点は291点で**参加国中第2位**、OECD平均は263点
- ◆低い習熟度（レベル1以下）の割合は**参加国中最も少なく**、高い習熟度（レベル4以上）の割合は**参加国中第2位**（第1位フィンランド）

成人の数的思考力の習熟度レベル別分布（16歳～65歳）

※レベル1以下の成人の割合が少ない順に上から国を並べたもの



注 言語の問題からドアステップ・インタビューのみを実施した成人も含む。

2. PIAAC第2回調査の結果概要

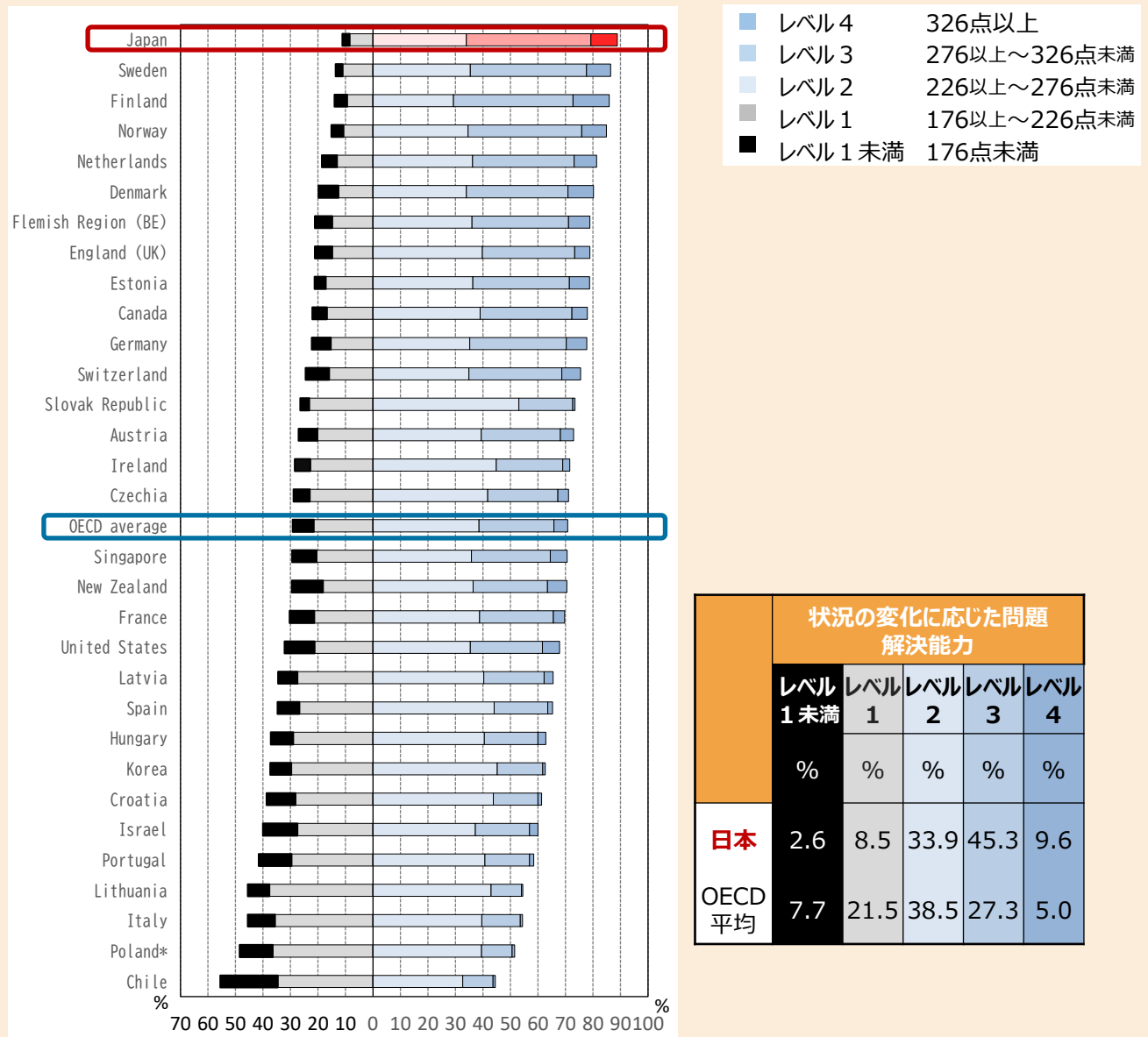
(3) 状況の変化に応じた問題解決能力

「状況の変化に応じた問題解決能力」は、解決方法が即座に利用できない動的な状況において、自分の目標を達成する能力。問題を明確にし、情報を検索し、様々な情報環境や文脈の中で解決策を適用するために、認知的・メタ認知的なプロセスに取り組むことを必要とする。

- ◆日本の「状況の変化に応じた問題解決能力」の平均得点は276点で、**フィンランドと並んで第1位相当**、OECD平均は251点
- ◆低い習熟度（レベル1以下）の割合は**参加国中最も少なく**、高い習熟度（レベル4）の割合は**参加国中第2位**（第1位フィンランド）

成人の状況の変化に応じた問題解決能力の習熟度レベル別分布（16歳～65歳）

※レベル1以下の成人の割合が少ない順に上から国を並べたもの



	状況の変化に応じた問題解決能力				
	レベル1未満	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
	%	%	%	%	%
日本	2.6	8.5	33.9	45.3	9.6
OECD平均	7.7	21.5	38.5	27.3	5.0

レベル1以下の成人

レベル2以上の成人

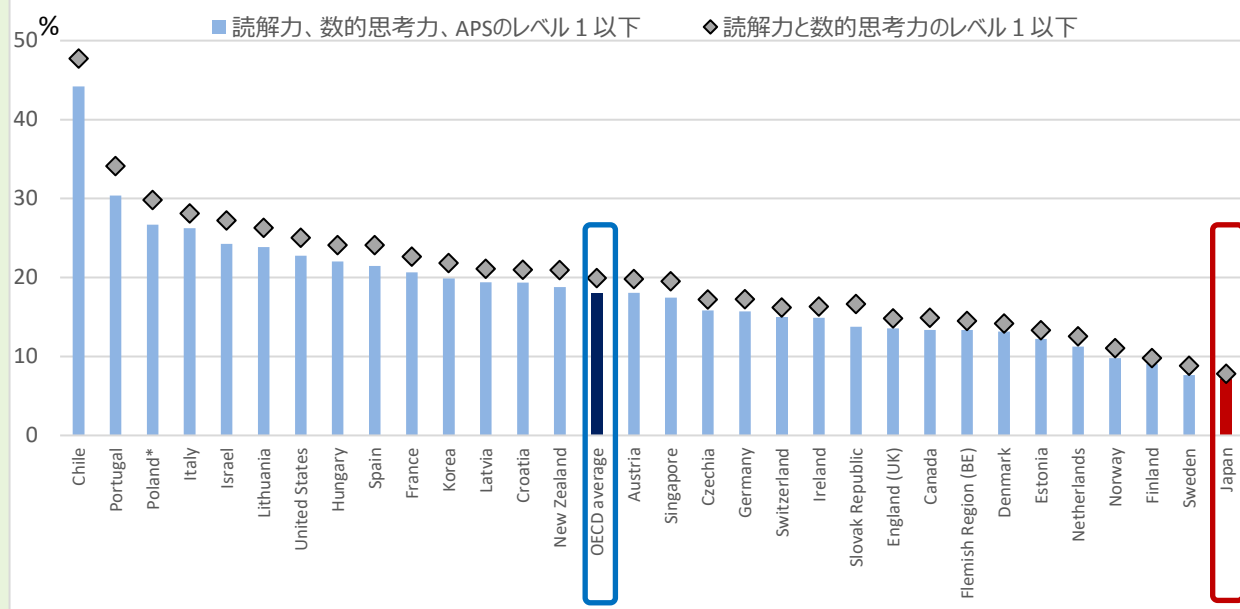
注 言語の問題からドラステップ・インタビューのみを実施した成人も含む。

2. PIAAC第2回調査の結果概要

(4) 習熟度・得点の分布

- ◆日本は、3分野（読解力、数的思考力、状況の変化に応じた問題解決能力）全てにおいてレベル1以下の割合が参加国中最も少ない。
- ◆日本は、成人の成績下位10%値と上位10%値を比較すると、得点の差は3分野全てにおいて小さい。

1つ以上の分野で習熟度が低い割合（16歳～65歳）

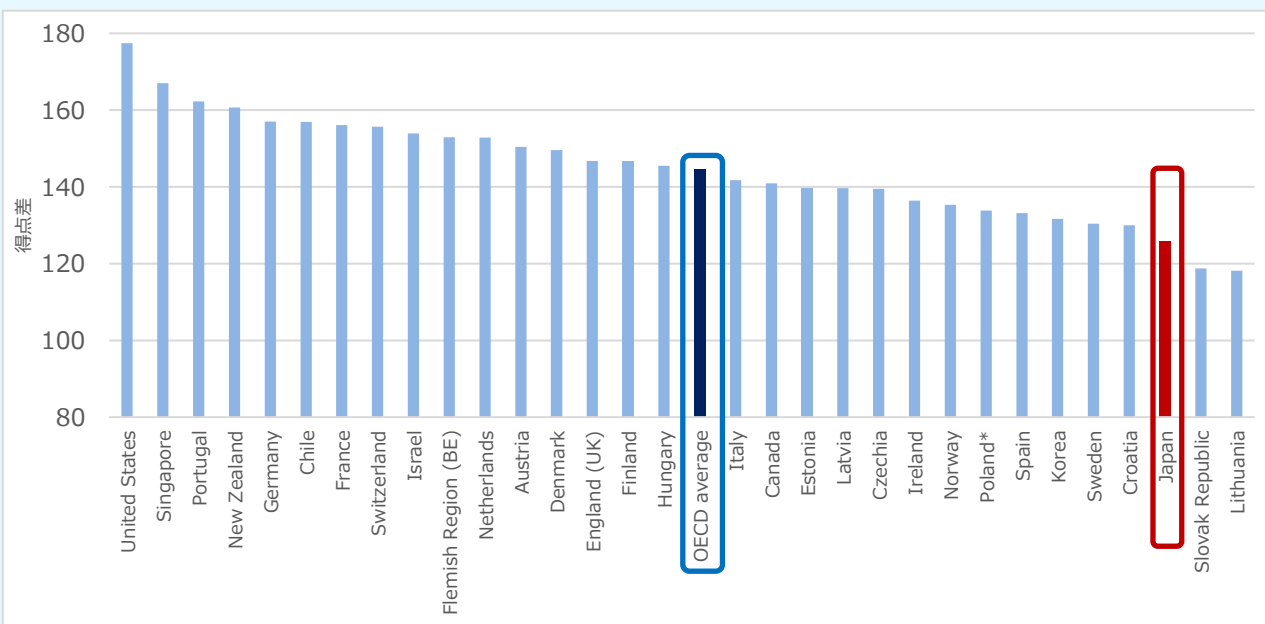


注1 国・地域は、3分野でレベル1以下の成人割合が多い順。

注2 言語の問題からドアステップ・インタビューのみを実施した成人も含む。

数的思考力の得点の差（16歳～65歳）

※成績下位10%値と上位10%値を比較したときの得点差



注1 国・地域は、下位10%値と上位10%値を比較したときの差が大きい順。

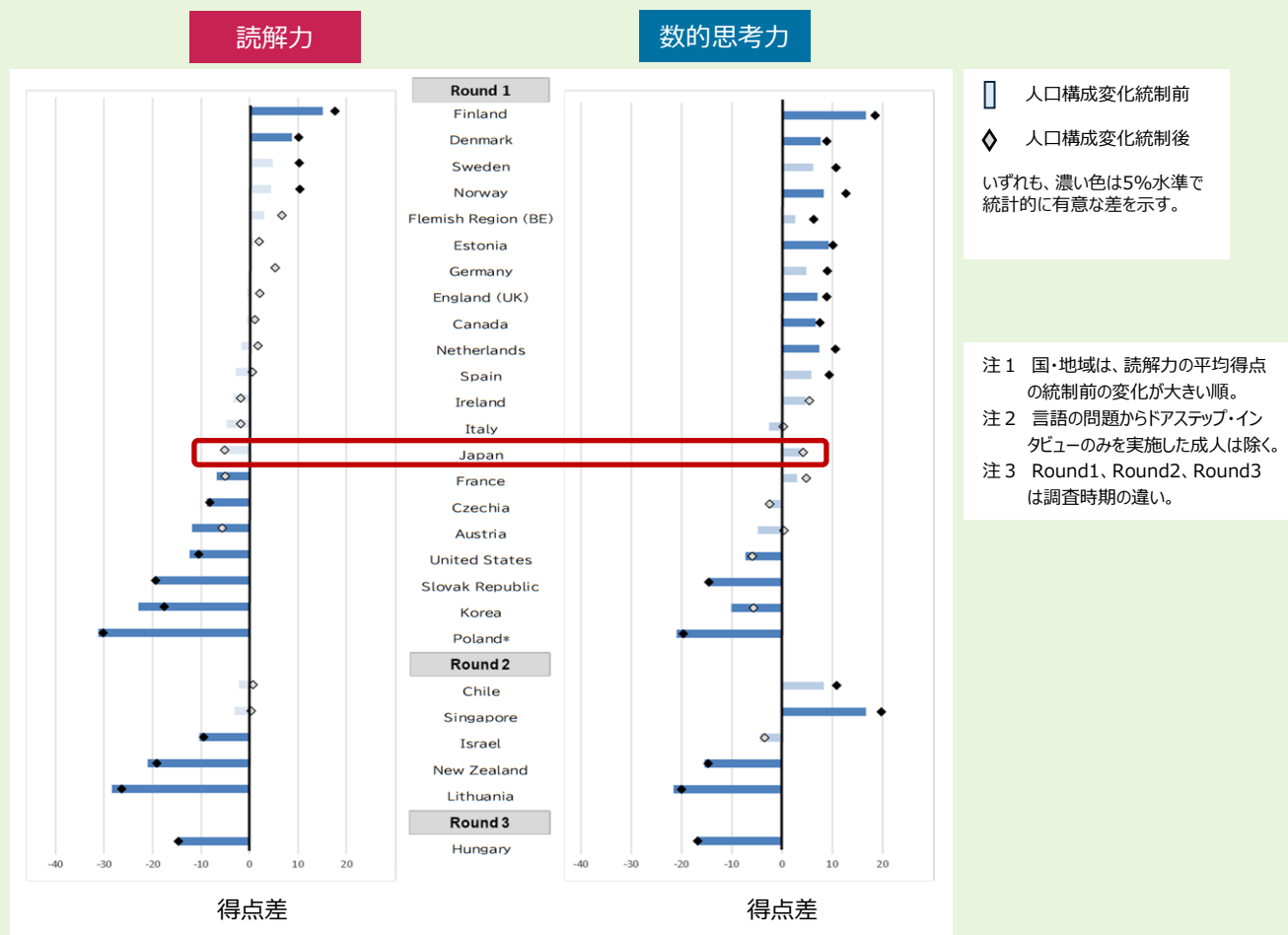
注2 言語の問題からドアステップ・インタビューのみを実施した成人も含む。

2. PIAAC第2回調査の結果概要

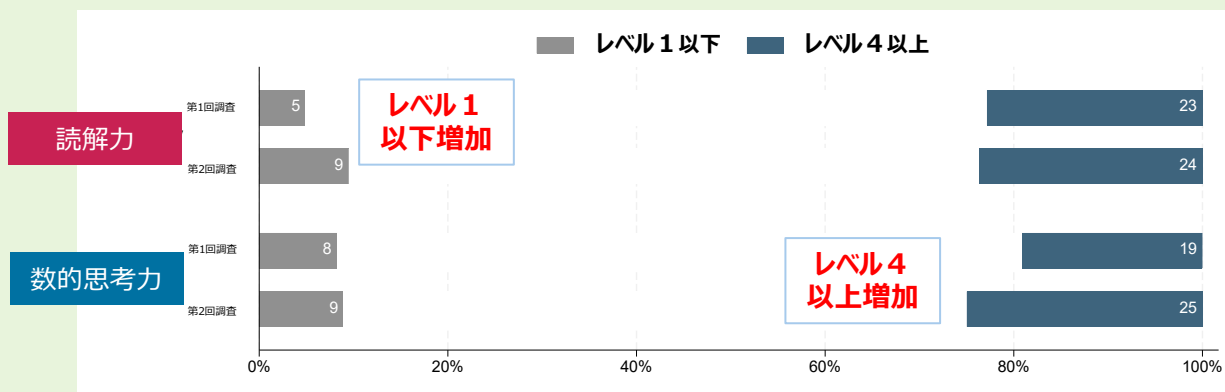
(5) 第1回調査との比較

- ◆「読解力」の平均得点は低下し、「数的思考力」の平均得点は上昇したが、いずれも統計的に有意な変化ではない。
- ◆「読解力」は、**低い習熟度**（レベル1以下）の割合が増加、「数的思考力」は、**高い習熟度**（レベル4以上）の割合が増加。

読解力と数的思考力の第1回と第2回の平均得点の差（16歳～65歳）



日本の習熟度レベル1以下またはレベル4以上の割合と変化（16歳～65歳）



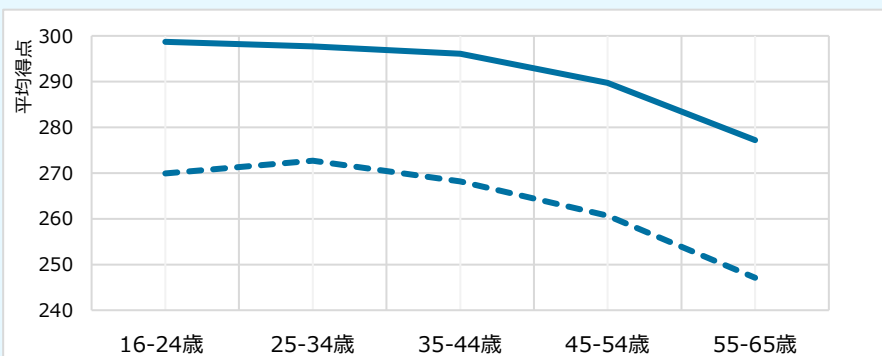
2. PIAAC第2回調査の結果概要

(6) 成人の属性やスキル等との関係

① 年齢との関係

- ◆ 3分野の全てにおいて、**中高年期に徐々に低下**していく傾向がある。日本は、いずれの年齢層でも、OECD平均を上回る世界トップレベルの習熟度。
- ◆ 日本は、16～24歳の平均得点について、「数的思考力」で**参加国中第1位**、「読解力」及び「状況の変化に応じた問題解決能力」で**参加国中第2位**。

数的思考力と年齢の関係（OECD平均と日本の比較）



— 日本
- - - OECD平均

注 言語の問題からドラス
テップ・インタビューのみを
実施した成人も含む。

年齢層別の平均得点（OECD平均と日本の比較）

読解力

数的思考力

	16-24歳	25-34歳	35-44歳	45-54歳	55-65歳
日本	298.4	301.1	298.8	287.4	267.7
OECD平均	270.7	271.7	264.8	256.3	241.2

	16-24歳	25-34歳	35-44歳	45-54歳	55-65歳
日本	298.7	297.7	296.1	289.7	277.2
OECD平均	269.9	272.7	268.2	260.7	247.1

平均得点の比較(16歳～24歳)

読解力	平均得点	数的思考力	平均得点	状況の変化に応じた 問題解決能力	平均得点
フィンランド	302	日本	299	フィンランド	288
日本	298	シンガポール	298	日本	287
エストニア	291	フィンランド	296	エストニア	280
ノルウェー	288	オランダ	293	ノルウェー	279
オランダ	285	エストニア	289	オランダ	278
スイス	285	スイス	289	スイス	277
シンガポール	285	ノルウェー	287	シンガポール	276
ドイツ	279	オーストリア	283	オーストリア	273
スウェーデン	279	ドイツ	280	ドイツ	272
イングランド（英国）	279	フランドル地方（ベルギー）	279	デンマーク	272
OECD平均	271	OECD平均	270	OECD平均	262

注 言語の問題からドラス
テップ・インタビューのみを
実施した成人も含む。

年齢層別の成人割合

	16-24歳	25-34歳	35-44歳	45-54歳	55-65歳
日本	14.2%	17.6%	20.3%	25.2%	22.8%
OECD平均	15.7%	19.8%	21.1%	21.2%	22.2%

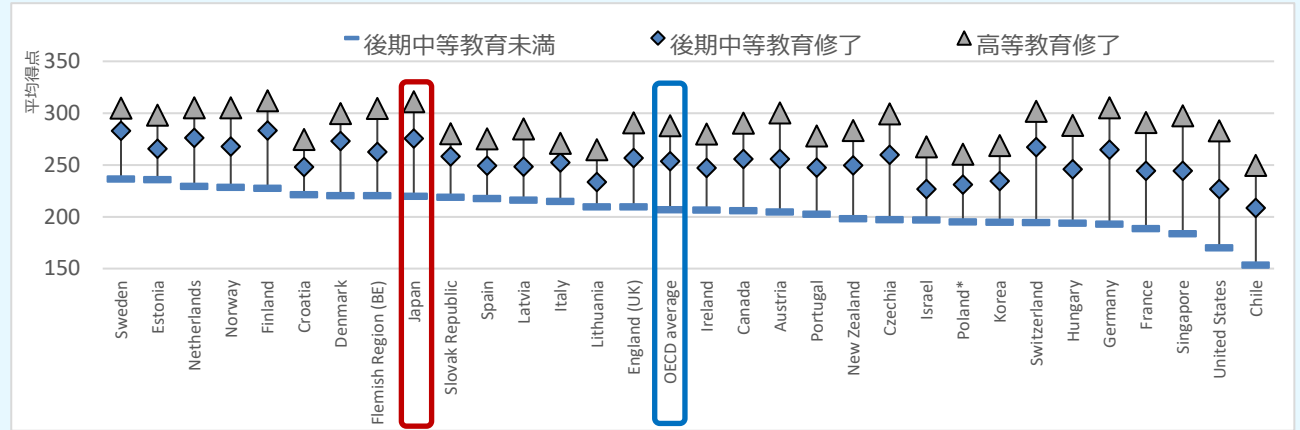
2. PIAAC第2回調査の結果概要

(6) 成人の属性やスキル等との関係

② 学歴との関係

- ◆ 3分野いずれも、学歴が高いほど習熟度が高い。
- ◆ 日本は、学歴別の平均得点について、いずれもOECD平均を上回っている。

学歴別の数的思考力の平均得点分布（25歳～65歳）



注1 国・地域は、後期中等教育未満の成人の習熟度が高い順。

注2 凡例は、教育を受けていないまたは10年未満を「後期中等教育未満」、11年以上13年未満を「後期中等教育修了」、13年以上を「高等教育修了」とみなす。学歴は国際標準教育分類（ISCED）2011に基づき、後期中等教育未満（ISCED 1、2、3 short）、後期中等教育（ISCED 3、4）、高等教育（ISCED 5、6、7、8）に分類。なお、ISCED 5、6、7、8 は、日本における大学、専修学校専門課程、高等専門学校等の4～5年に該当するため、本グラフの「高等教育」は国際報告書における“tertiary education”の訳語として使用している。

注3 言語の問題からドラステップ・インタビューのみを実施した成人も含む。

学歴別の平均得点（国際比較）（25歳～65歳）

	読解力			数的思考力			
	後期中等教育未満	後期中等教育修了	高等教育修了	後期中等教育未満	後期中等教育修了	高等教育修了	
Sweden	241	283	300	237	283	305	
Estonia	233	256	293	236	266	298	
Netherlands	226	274	298	230	276	305	
Croatia	225	249	273	229	268	305	
Norway	224	264	299	228	283	312	
Finland	224	288	313	222	248	275	
Japan	221	274	308	221	273	300	
Slovak Republic	218	253	269	Flemish Region (Belgium)	220	263	305
England (UK)	218	261	291	Japan	220	275	311
Spain	218	244	271	Slovak Republic	219	258	280
Italy	217	252	271	Spain	218	249	275
Denmark	217	265	293	Latvia	216	248	285
Flemish Region (Belgium)	217	259	299	Italy	215	252	271
Ireland	210	250	281	Lithuania	210	234	265
New Zealand	207	255	283	England (UK)	210	257	291
OECD average	207	250	283	OECD average	207	253	288
Canada	206	259	287	Ireland	207	247	280
Latvia	204	231	270	Canada	206	256	290
Lithuania	204	226	255	Austria	205	256	300
Poland*	202	228	255	Portugal	203	248	278
Portugal	202	240	272	New Zealand	198	250	283
Czechia	201	251	289	Czechia	197	260	299
Austria	194	242	284	Israel	197	227	268
Hungary	194	237	283	Poland*	195	231	260
Germany	192	258	294	Korea	195	234	269
Korea	192	229	264	Switzerland	195	267	302
France	192	240	287	Hungary	194	246	288
Israel	190	225	263	Germany	193	265	305
Switzerland	189	257	289	France	189	244	291
United States	183	240	287	Singapore	184	244	297
Singapore	168	226	275	United States	170	227	283
Chile	161	210	249	Chile	153	208	250

男性・女性の学歴別の割合

	合計			男性			女性		
	後期中等教育未満	後期中等教育	高等教育	後期中等教育未満	後期中等教育	高等教育	後期中等教育未満	後期中等教育	高等教育
日本	6.7%	43.4%	49.9%	8.4%	43.7%	47.9%	5.0%	43.0%	52.0%
OECD平均	14.0%	42.1%	43.9%	15.1%	44.7%	40.1%	12.8%	39.5%	47.6%

注 言語の問題からドラステップ・インタビューのみを実施した成人を含む。

第1回と第2回の比較（25歳～65歳）

	第1回			第2回			増減		
	後期中等教育未満	後期中等教育	高等教育	後期中等教育未満	後期中等教育	高等教育	後期中等教育未満	後期中等教育	高等教育
日本	11.5%	42.9%	45.5%	6.2%	43.6%	50.2%	-5.3%	0.6%	4.7%
OECD平均	20.1%	44.7%	35.2%	13.5%	42.7%	43.8%	-6.6%	-2.0%	8.6%

注 言語の問題からドラステップ・インタビューのみを実施した成人を含まない。このため、「男性・女性の学歴別の割合」と数値が一致しない。

2. PIAAC第2回調査の結果概要

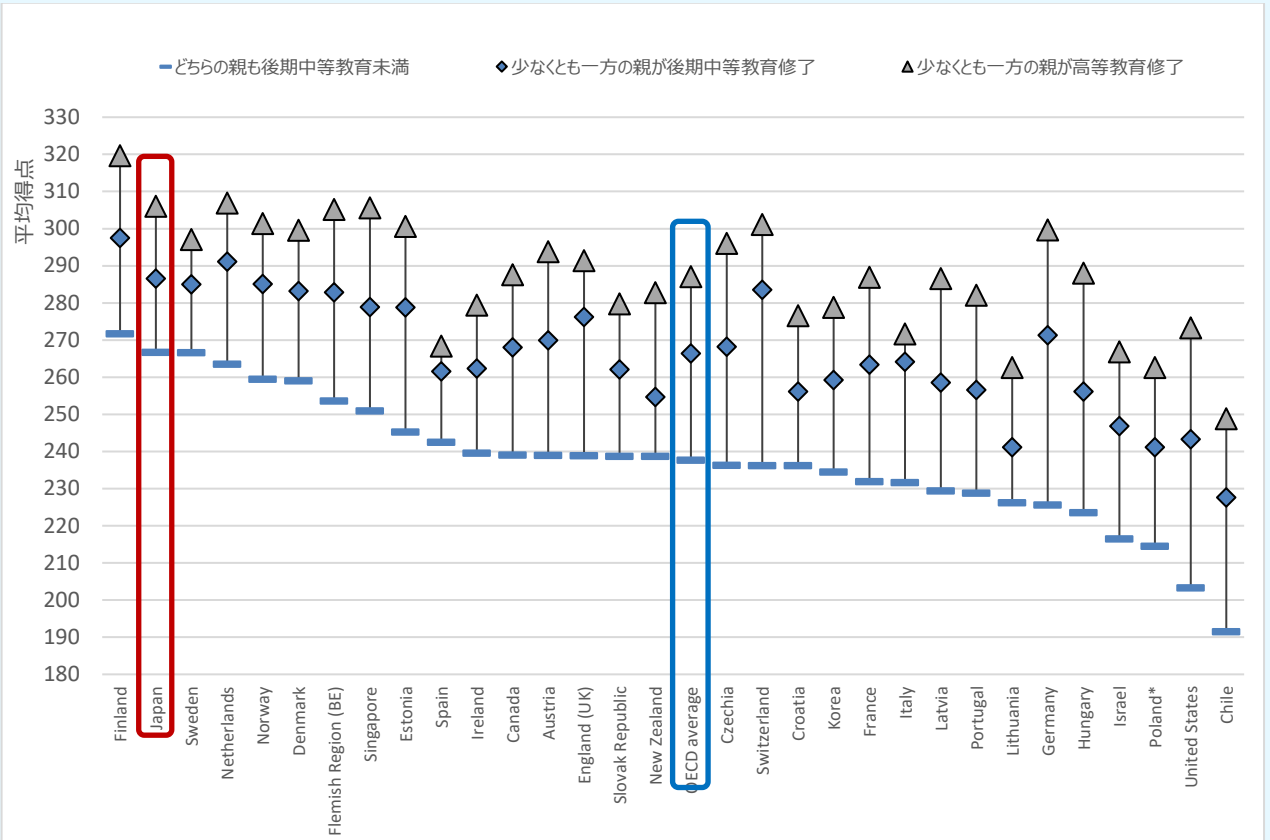
(6) 成人の属性やスキル等との関係

③親の学歴との関係

- ◆日本も他の参加国も、親の学歴が高いほど本人の習熟度が高い傾向。
- ◆日本は親の学歴別に見た平均得点の差が、いずれの分野でもOECD平均より小さい。

※OECDは、親の学歴を成人が子供の頃の社会経済的背景の代理指標として扱い、成人の両親が後期中等教育未満、親のどちらか一方が後期中等教育修了、親のどちらか一方が高等教育修了に分類して比較。

親の学歴別に見た数的思考力の平均得点分布（16歳～65歳）



注1 国・地域は、どちらの親も後期中等教育未満の回答者の平均得点が大きい順。

注2 回答者をどちらの親も後期中等教育未満、少なくとも一方の親が後期中等教育修了でどちらも高等教育を受けていない、少なくとも一方の親が高等教育修了に分類。

注3 言語の問題からドアステップ・インタビューのみを実施した成人は含まない。

親の学歴別に見た平均得点の差（16歳～65歳）

※親の学歴が、高等教育修了と後期中等教育未満の場合を比較

	読解力	数的思考力	状況の変化に応じた問題解決力
日本	43.3	39.3	34.5
OECD平均	50.1	49.4	41.6

注1 統制前の平均得点の差。

注2 回答者をどちらの親も後期中等教育未満、少なくとも一方の親が後期中等教育修了でどちらも高等教育を受けていない、少なくとも一方の親が高等教育修了に分類。

注3 言語の問題からドアステップ・インタビューのみを実施した成人は含まない。

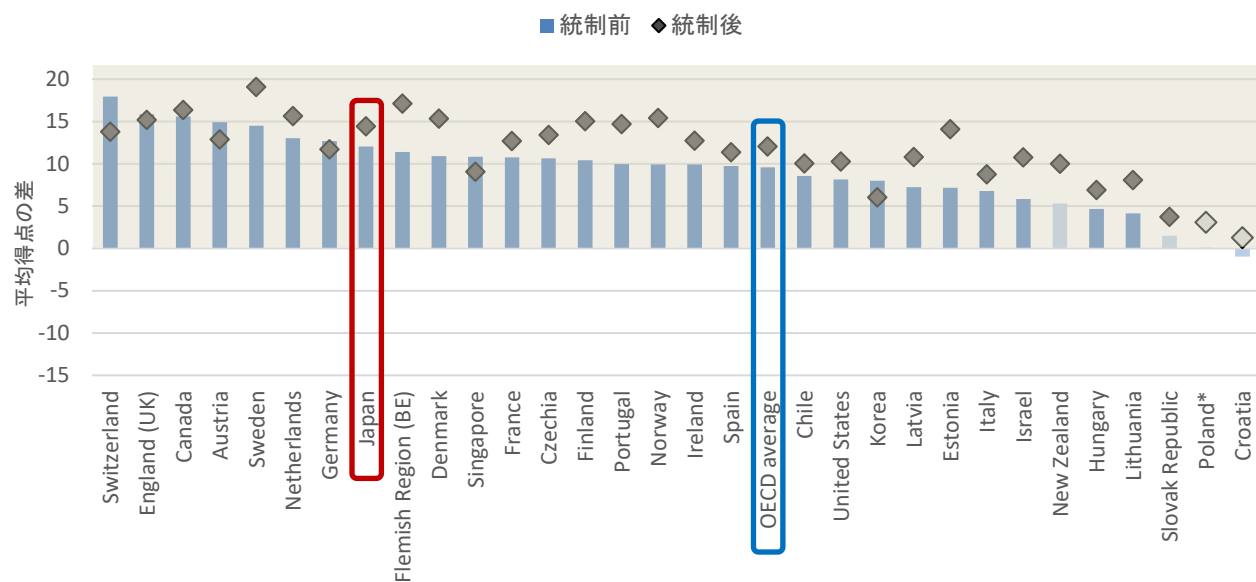
2. PIAAC第2回調査の結果概要

(6) 成人の属性やスキル等との関係

④性別との関係

- ◆日本を含むほとんどの参加国は、**数的思考力の平均得点で男性が女性を上回る**が、日本は読解力や状況の変化に応じた問題解決能力の平均得点で男女の有意な差はない。
- ◆日本の女性は、いずれの分野でも平均得点が**OECD平均を大きく上回る**。

男女別の数的思考力の平均得点の差（16歳～65歳）



注1 男性から女性の平均得点を差し引いた値。

注2 統制前の差は平均得点の差。統制後の差は、教育、年齢、移民の背景、家庭で話されている言語、親の学歴に関連する差を考慮したモデルに基づく。

注3 国・地域は、男女間の統制前の平均得点の差が大きい順。濃い色は、5%水準で統計的に有意な差を示す。

注4 言語の問題からドアステップ・インタビューのみを実施した成人を含む。

分野ごとの男女別の平均得点の差（16歳～65歳）

読解力

日本は男女に有意な差はない

	男性	女性	男女の得点差
日本	289.1	289.3	-0.2
OECD 平均	258.7	261.3	-2.6

数的思考力

男性が女性を有意に上回る

	男性	女性	男女の得点差
日本	296.8	284.7	12.0
OECD 平均	267.8	258.2	9.6

状況の変化に応じた問題解決能力

日本は男女に有意な差はない

	男性	女性	男女の得点差
日本	277.0	275.6	1.4
OECD 平均	251.9	249.4	2.5

注1 男女の得点差は統制前の平均得点の差。

注2 言語の問題からドアステップ・インタビューのみを実施した成人を含む。

2. PIAAC第2回調査の結果概要

(6) 成人の属性やスキル等との関係

④ 専攻との関係

- ◆ 日本は、STEM/非STEMの高等教育を修了した成人について、3分野いずれも**平均得点で男性が女性を上回る**。※STEM (science, technology, engineering and mathematics : 科学、技術、工学、数学)
- ◆ 日本は、3分野いずれも、**平均得点でSTEMの高等教育を修了した成人が非STEMを上回る**が、非STEMであってもOECD平均を上回る。
- ◆ 日本は、STEMの高等教育の修了者のうち、**女性の割合が参加国中で最も少ない**。また、高等教育の修了者のうち、**STEMを専攻した割合が参加国中で2番目に少ない**。

高等教育を修了した男性・女性 (STEM/非STEM) の数的思考力の平均得点 (25歳～65歳)

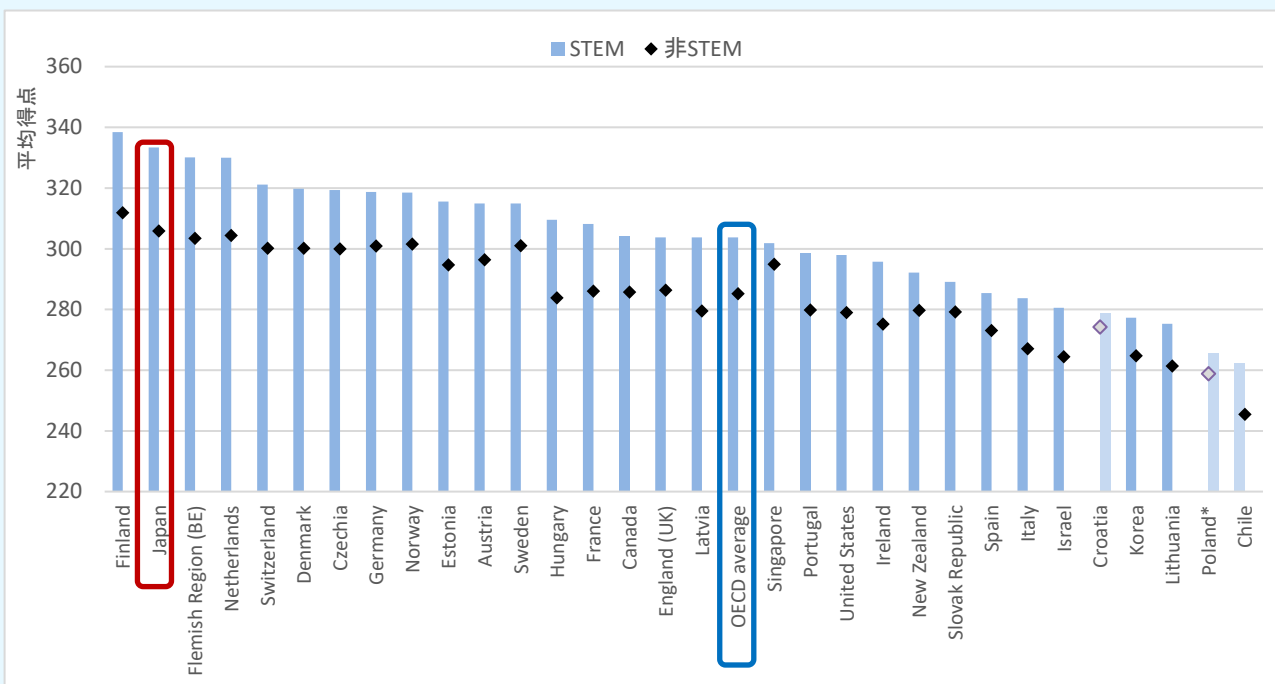
	男性		女性		男女の得点差	
	STEM	非STEM	STEM	非STEM	STEM	非STEM
日本	335.9	316.6	318.8	299.1	17.1	17.5
OECD 平均	306.0	294.5	297.5	280.1	8.5	14.4

注1 男女の得点差は統計前の平均得点の差。

注2 STEMの高等教育の修了者とは、ICT、自然科学、数学及び統計、工学、建設の分野を専攻したと回答した人。教育プログラムの分類は、国際標準教育分類 (ISCED) 2011に基づいている。

注3 言語の問題からドアステップ・インタビューのみを実施した成人は含まない。

高等教育を修了した成人のSTEM/非STEMの数的思考力の平均得点の差 (25歳～65歳)



注1 濃い色は、5%水準で統計的に有意な差を示す。国・地域は、STEM分野の高等教育を修了した成人の平均得点が高い順。

注2 STEMは同上。教育プログラムの分類は、国際標準教育分類 (ISCED) 2011に基づいている。

注3 言語の問題からドアステップ・インタビューのみを実施した成人は含まない。

2. PIAAC第2回調査の結果概要

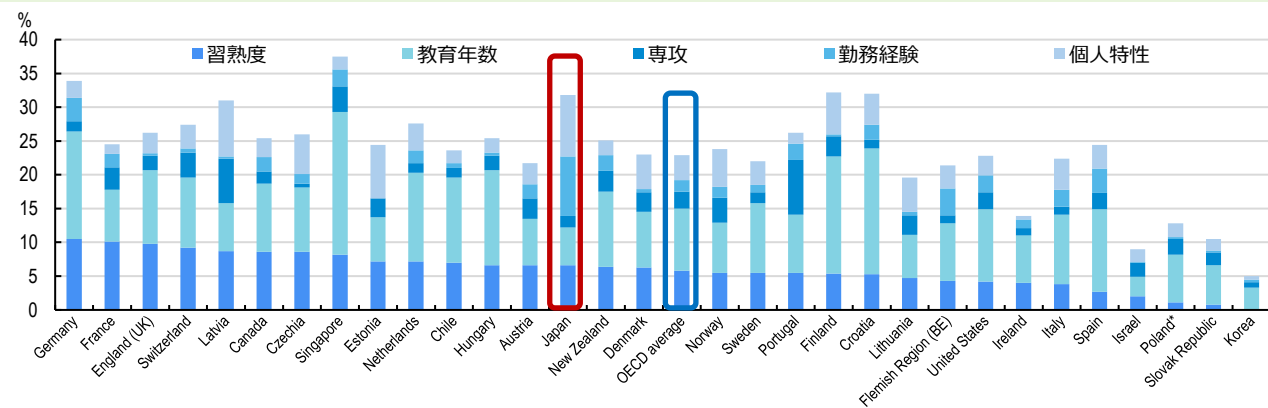
(6) 成人の属性やスキル等との関係

⑥就業・賃金への影響

- ◆日本は習熟度、教育年数、専攻より、勤務経験、個人特性（年齢・性別等）が賃金に影響。
- ◆数的思考力は、失業率への影響は小さいが、労働市場参加率、賃金に影響。
- ◆日本は、現在の仕事に対して必要以上の学歴や資格を持っていると回答した割合が多く、スキル不足や学問の専攻がミスマッチであると回答した割合も多い。

※OECDは、各国回答者の自己評価型の質問への取り組み方の違い、労働市場制度の違いが、結果に影響している可能性がある、としている。

測定可能な属性の賃金変化への寄与度（現在学校教育を受けていない就業している25歳～65歳）

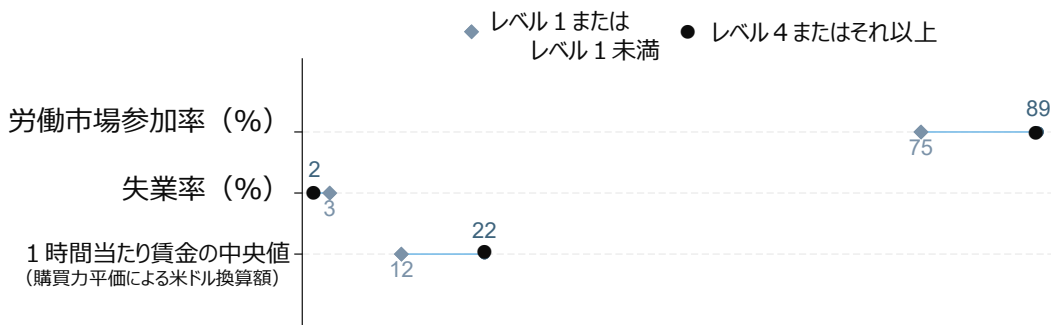


注1 国・地域は、習熟度によって説明される賃金変化の割合が高い順。

注2 習熟度（数的思考力、読解力）、教育年数、専攻、勤務経験、個人特性（年齢、性別、移民背景）の対数賃金の変動に対する寄与度を計算したもの。

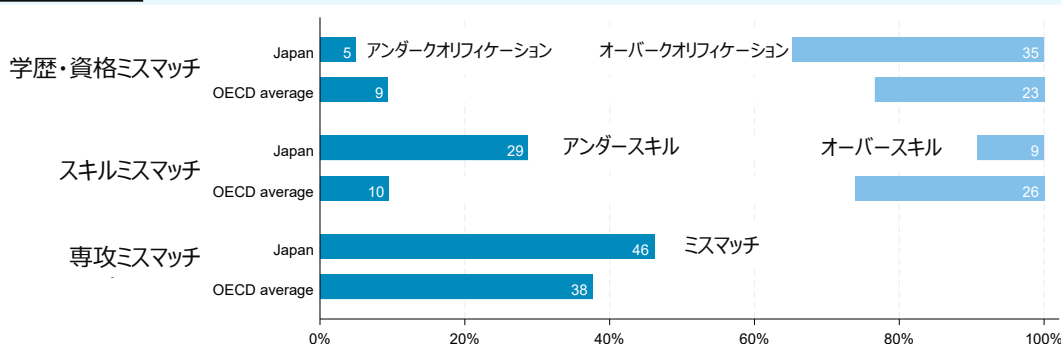
注3 言語の問題からドアステップ・インタビューのみを実施した成人は含まない。

日本の数的思考力の就業に対する影響（現在学校教育を受けていない25歳～65歳）



※ 労働市場参加率とは労働人口に対する被雇用者と求職者の合計の割合

日本とOECD平均の学歴・資格、スキル、専攻のミスマッチ（現在学校教育を受けていない25歳～65歳）



注 言語の問題からドアステップ・インタビューのみを実施した成人は含まない。

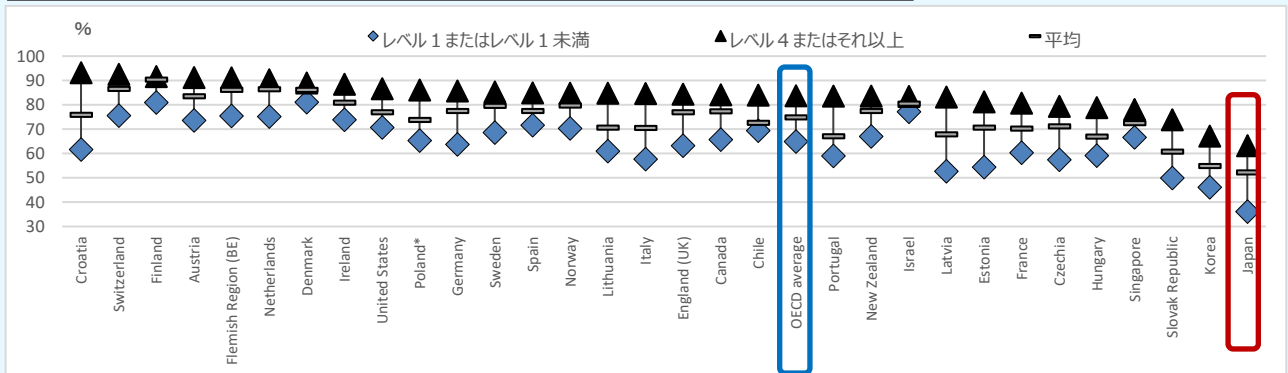
2. PIAAC第2回調査の結果概要

(6) 成人の属性やスキル等との関係

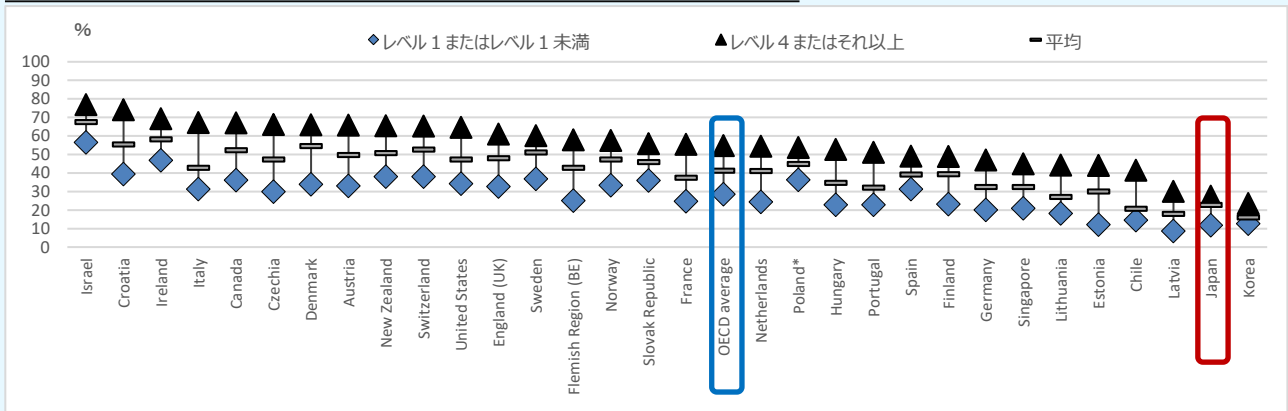
⑥ 社会的アウトカムとの関係

- ◆日本も他の参加国も、習熟度が高いほど、生活満足度と健康に肯定的な回答をする成人の割合が多い傾向。日本は、生活満足度と健康に肯定的な回答をする成人の割合はOECD平均と比べて少ない。
- ◆日本は、政治的効用感に肯定的に回答する割合が多く、習熟度が高いほどその割合が増加。
- ※「社会的アウトカム」は、就業や賃金以外の要因として、個人のウェルビーイングや社会的なつながりに寄与する生活満足度、個人の健康、政治的効用感などのこと。
- ※「政治的効用感」は、回答者が政府の活動に対しどの程度の発言権があると感じるか質問し、0から10までの尺度で7以上を肯定的な回答とした。

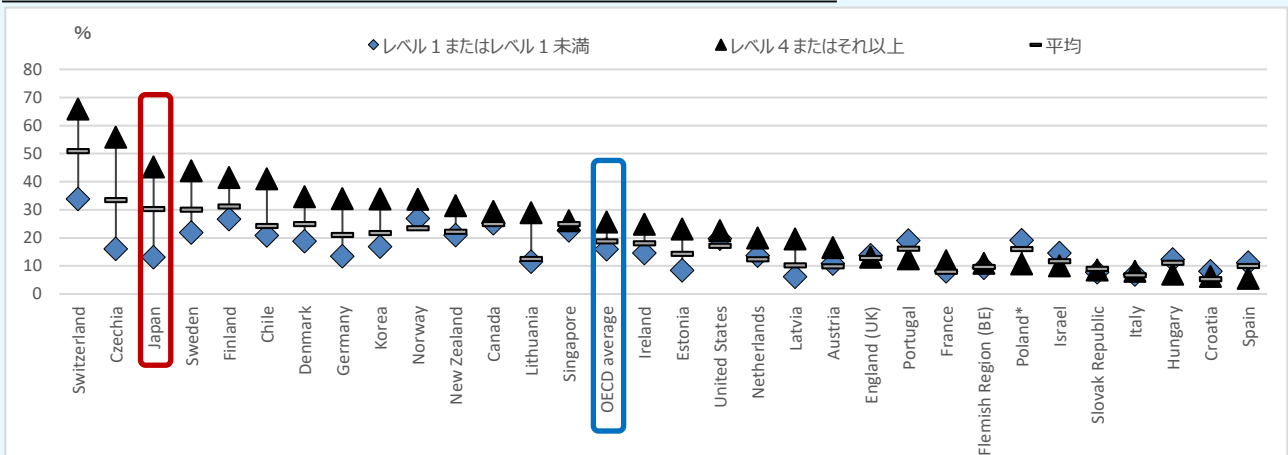
数的思考力と個人の生活満足度の関係（25歳～65歳）



数的思考力と個人の健康の関係（25歳～65歳）



数的思考力と政治的効用感の関係（25歳～65歳）



注1 国・地域は、肯定的な回答をしたレベル4以上の成人の割合が多い順。
 注2 言語の問題からドアステップ・インタビューのみを実施した成人は含まない。

PIAACの概要

<p>背景・目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経済のグローバル化や知識基盤社会への移行に伴い、OECD（経済協力開発機構）加盟国では、雇用を確保し経済成長を促すため、国民のスキルを高める必要があるとの認識が広まっている。このような中、OECDでは、各国の成人のスキルの状況を把握し、各国の政策に資する知見を得ることを目的として、本調査を実施している。
<p>実施体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国際的には、OECDに置かれた参加国の政府代表で構成されるPIAAC参加国会議が決定した枠組みの下、米国のETS（Educational Testing Service）やIEA（国際教育到達度評価学会）など複数の専門機関で構成される国際コンソーシアムが中心となって各国が調査を実施した。 我が国では、国立教育政策研究所が実施機関となり、国際的な取り決めにしたがって、国内調査を実施した。 詳細な調査結果等について、別途、国立教育政策研究所により日本版報告書として取りまとめる予定。
<p>参加国・地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> 以下の31か国・地域（うち27か国・地域が第1回調査にも参加） オーストリア、カナダ、チリ、クロアチア、チェコ、デンマーク、イングランド（英国）、エストニア、フィンランド、フランドル地方（ベルギー）、フランス、ドイツ、ハンガリー、アイルランド、イスラエル、イタリア、日本、韓国、ラトビア、リトアニア、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、シンガポール、スロバキア、スペイン、スウェーデン、スイス、アメリカ合衆国
<p>調査期間</p>	<ul style="list-style-type: none"> OECD：令和4年9月～令和5年8月 日本：令和4年9月～令和5年4月
<p>調査対象</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本では、16歳～65歳の成人13,500人を住民基本台帳から層化二段抽出法によって無作為に抽出し、5,165人より回答を得た。 未成年者については、保護者の同意を得た上で調査を行った。 <p>(注)「層化二段抽出法」：全国の市区町村を7つの地域ブロックと5つの人口規模の組合せにより分割し（層化）、各層から調査地点となる500の町丁字を抽出（一段目）、住民基本台帳を抽出枠として町丁字の住民から対象となる個人を抽出（二段目）</p>

PIAAC第2サイクルの調査内容等

<p>調査概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成23（2011）年に第1回調査、令和4（2022）年に第2回調査を実施した。第2回調査では、第1回調査で測定した「読解力」、「数的思考力」のほか、「ITを活用した問題解決能力」に代わる「状況の変化に応じた問題解決能力」の3分野のスキルを測定。また、背景調査を併せて実施。 知識の有無を問うのではなく、日常生活の様々な状況の中で情報を活用するスキルを重視。高度な数学の公式などの知識がないと解けない問題は出題されていない。
--------------------	---

PIAAC第2サイクルの調査内容等

<p>調査項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> 背景調査（今回はこれらの一部の結果を公表） 回答者の人口統計学的特徴と背景、教育達成度と教育訓練への参加、労働市場参加状況と雇用状態、スキルの活用と労働環境、社会情緒的スキル、社会的アウトカム 3分野のスキル 「読解力」(Literacy) 自分の目標を達成し、知識と可能性を伸ばし、社会に参加するために、書かれたテキストにアクセスし、理解し、評価し、熟考すること 「数的思考力」(Numeracy) 成人期における様々な状況での数学的な要求に取り組み、対処するために、複数の方法で表現された数学的な内容、情報、アイデアにアクセスし、利用し、批判的に推論すること 「状況の変化に応じた問題解決能力」(Adaptive Problem Solving : APS) 解決方法が即座に利用できない動的な状況において、自分の目標を達成する能力。問題を明確にし、情報を検索し、様々な情報環境や文脈の中で解決策を適用するために、認知的・メタ認知的なプロセスに取り組むことを必要とする。 																																										
<p>調査方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> 対象者の自宅等において、専用のタブレットを用いて対面方式で調査を実施（前回は紙と併用）。 最初に、調査員が質問項目を読み上げ、回答を入力する方法で背景調査を行い、その後、3分野のスキルに関する調査を、対象者がタブレットに問題の解答を入力する方法で実施。 対象者は、3分野のスキルのうちの2分野のスキルについて、問題に解答。 「読解力」と「数的思考力」については、それらの基礎的な要素である「コンポーネント」の調査も実施。 時間に制限はないが、所要時間は背景調査を含め概ね2時間。 日本語による調査ができない対象者には、今回初めて簡易な「ドアステップ・インタビュー」を別途実施。 																																										
<p>結果の分析尺度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果は、3分野のスキル毎に0～500点の得点と、得点をスケール化した習熟度レベル (Proficiency level) で評価（得点は推定値）。 「読解力」と「数的思考力」は、6段階（高い順に、レベル5からレベル1、レベル1未満）、「状況の変化に応じた問題解決能力」は、5段階（高い順に、レベル4からレベル1、レベル1未満）で評価している。 <table border="1" data-bbox="332 1543 1275 1819"> <thead> <tr> <th colspan="2">読解力</th> <th colspan="2">数的思考力</th> <th colspan="2">状況の変化に応じた問題解決能力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レベル5</td> <td>376点以上</td> <td>レベル4</td> <td>326点以上</td> <td>レベル4</td> <td>326点以上</td> </tr> <tr> <td>レベル4</td> <td>326以上～376点未満</td> <td>レベル3</td> <td>276以上～326点未満</td> <td>レベル3</td> <td>276以上～326点未満</td> </tr> <tr> <td>レベル3</td> <td>276以上～326点未満</td> <td>レベル2</td> <td>226以上～276点未満</td> <td>レベル2</td> <td>226以上～276点未満</td> </tr> <tr> <td>レベル2</td> <td>226以上～276点未満</td> <td>レベル1</td> <td>176以上～226点未満</td> <td>レベル1</td> <td>176以上～226点未満</td> </tr> <tr> <td>レベル1</td> <td>176以上～226点未満</td> <td>レベル1未満</td> <td>176点未満</td> <td>レベル1未満</td> <td>176点未満</td> </tr> <tr> <td>レベル1未満</td> <td>176点未満</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	読解力		数的思考力		状況の変化に応じた問題解決能力		レベル5	376点以上	レベル4	326点以上	レベル4	326点以上	レベル4	326以上～376点未満	レベル3	276以上～326点未満	レベル3	276以上～326点未満	レベル3	276以上～326点未満	レベル2	226以上～276点未満	レベル2	226以上～276点未満	レベル2	226以上～276点未満	レベル1	176以上～226点未満	レベル1	176以上～226点未満	レベル1	176以上～226点未満	レベル1未満	176点未満	レベル1未満	176点未満	レベル1未満	176点未満				
読解力		数的思考力		状況の変化に応じた問題解決能力																																							
レベル5	376点以上	レベル4	326点以上	レベル4	326点以上																																						
レベル4	326以上～376点未満	レベル3	276以上～326点未満	レベル3	276以上～326点未満																																						
レベル3	276以上～326点未満	レベル2	226以上～276点未満	レベル2	226以上～276点未満																																						
レベル2	226以上～276点未満	レベル1	176以上～226点未満	レベル1	176以上～226点未満																																						
レベル1	176以上～226点未満	レベル1未満	176点未満	レベル1未満	176点未満																																						
レベル1未満	176点未満																																										

読解力

例1) 幼稚園のルール

必要となる情報に適切に「アクセス」するスキルを測定する問題項目。

園児の親を対象とするルールのリストを読み、登園時間についての情報が書かれたルールの文をタップして解答する。

幼稚園のルールのリストを見てください。このリストの中で、次の質問の答えに相当するものを、タップしてください。

登園時間は何時までですか。

正解	1つ目のルール（午前9時までにお子様をお連れください。）
難易度	低

幼稚園のルール



幼稚園へようこそ！学びながらお互いを知り合う楽しい一年となることを期待しています。お手数ですが、当園のルールをご確認ください。

- ・ 午前9時までにお子様をお連れください。
- ・ お子様は動きやすい服装にし、着替えをお持ちください。
- ・ アクセサリーやキャンディーはご遠慮ください。お誕生日のお子様には特別なおやつを用意しますので、担任の先生にご相談ください。
- ・ お子様の着替えを済ませてからお連れ下さい（パジャマは不可）。
- ・ 朝食は午前7時30分頃に提供されます。
- ・ お昼寝用の小さな毛布か枕をご持参ください。おもちゃはご自宅に置いてくるようにお願いします。
- ・ お菓子はラベルが貼られた元の容器に入れ、各教室にある投棄表に必ずサインをしてください。
- ・ 何かご質問がございましたら、クラス担任か佐藤先生にご相談ください。

例2) パンとクラッカー

情報を統合して理解し、関連を推測することを求める問題項目。

なぜパンとクラッカーは食感が違うのか、そしてそれぞれが湿気にさらされることによってどのような影響を受けるのかについての簡単な記事を読み、解答欄に提示された文の内容が正しいかどうかを判断して表を完成させる。

パンとクラッカーについての記事を見てください。次の質問について、下の表の中をタップして答えてください。

記事の情報をもとにすると、パン、クラッカー、又はその両方について、以下に述べられていることは、それぞれ本当のことですか。

	パン	クラッカー	両方
鮮度を保つためにラップをかける。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
やわらかい場合は、より新鮮である。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
空気に触れることで影響を受ける。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

パンはかたくなるがクラッカーはやわらかくなる

なぜ空気に触れたパンはかたくなり、古くなるのでしょうか。その理由の1つはパンの水分が失われることです。一般的なやわらかいパンは、32～38%の水分量です。パンを包装しないで風雨にさらしたままにしておくと、パンの水分は空気に奪われます。水分量が14%程度まで減ると、パンはかたくなります。

パンの水分が蒸発していくのと同時に、パンのデンプン構造が変化する「老化」と呼ばれる過程が起きます。老化の間、パンの外皮はやわらかくなり、パンの中央部分はかたくなります。さらに、デンプンの一部が結晶化します。こうなると、パンは古くなるにつれて徐々にかたくなるのです。

クラッカーのようなかたいデンプンは、通常2～5%という極めて低い水分レベルで焼かれるため、サクサクしています。クラッカーは、空気に触れると空気中の水分を吸収します。クラッカーは、水分レベルが約9%に達すると、やわらかくなったように感じられます。

正解	(表の上から順に) 両方、パン、両方
難易度	中～高

読解力

コンポーネント

コンポーネントは読解力の問題に進む前に対象者が行う、最も基礎的な要素であるタスク

例1) 文の問題

文を読む流暢さを求める問題項目。

短い文を読み、それが現実的に意味を成しているかどうかを判断する問題。

文が現実的に意味を成す場合は「はい」を、意味を成さない場合は「いいえ」をタップして解答する。

(正解：いいえ)

文を読んでください。

- ・文が現実的に意味を成す場合は、「はい」をタップしてください。
- ・文が現実的に意味を成さない場合は、「いいえ」をタップしてください。

二人の少年が壁を投げた。

はい いいえ

例2) 編集者への手紙

文及び文章を読む流暢さを求める問題項目。

短い文から成る文章が提示され、それぞれ文を最も適切に表現する単語を、2つの中から1つ選ぶよう求められる。最も適切な単語をタップして解答する。(正解：マーカーされた単語)

編集者への手紙

編集者の方へ

昨日、バスの料金が値上げされることが発表されました。次の 妻 / 月 から20%まで値上がりすることです。毎日バスに乗る者として、私はこの 足 / 値上げ に怒っています。ガソリン / 学生 の費用が上がったことは理解しています。また、乗客がバスサービスのために適正な 価格 / へビ を支払わなければならないことも理解しています。私は 目的 / 仕事 へ行くのにバスに頼っているので、多少高く支払っても構いません。しかし、20%の 値上げ / おじさん は高すぎます。

画面に表示されている文を、初めから読んでいってください。

下線が引かれた2つの言葉がある文のところで、その文が現実的に意味を成すように、どちらか1つの言葉をタップして答えてください。

数的思考力

例1) 許容範囲

特定の値が指定された範囲内にあるかを識別することを求める問題項目。

-20℃から-15℃の範囲内の温度を維持しなければならない冷凍室について、提示された温度が許容範囲内かどうかを識別して、解答欄の選択肢を選ぶ。

「冷凍室の温度」を見てください。次の質問について、下の表の中をタップして答えてください。

以下の表中のそれぞれの温度は、許される温度の範囲内ですか。

次の温度は、許される温度の範囲内ですか。	はい	いいえ
-21.5℃	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
-14.9℃	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
-15.2℃	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

正解	(上から順に) いいえ、いいえ、はい
習熟度	レベル2

冷凍室の温度

食品加工会社では、食品を凍らせて保存しています。温度は摂氏(℃)で計測され、デジタル式の温度計に示されています。

冷凍室の温度は、常に-20.0℃から-15.0℃の範囲内で保たれていなければなりません。



例2) 壁紙

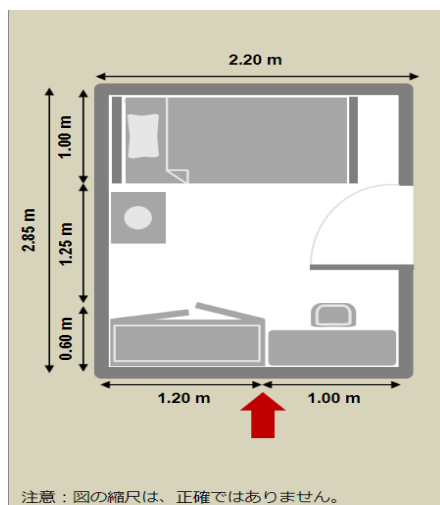
計算に必要な情報を特定し、適切な数値を当てはめることを求める問題項目。

壁を壁紙で覆うプロジェクトで、必要な壁紙のロール数を決定するために提供された「壁紙計算機」の利用に必要な4つの入力項目に適切な情報(数)を当てはめる。

「寝室の図面」と「壁紙計算機」を見てください。次の質問について、「壁紙計算機」の入力欄をタップし、表示されるキーボードを使って答えてください。

タンスと机の後ろの壁(矢印で指している部分)に、床から天井まで壁紙を貼ろうとしています。

「壁紙計算機」に正しい情報を入力してください。その次に「計算する」ボタンをタップして、必要な壁紙のロール数を表示させてください。



注意：図の縮尺は、正確ではありません。

「壁紙計算機」は、壁紙が何ロール必要なかを教えてくれます。次の1と2に、数値を入力してください。その次に、「計算する」ボタンをタップしてください。やり直すには、「リセット」ボタンをタップしてください。

1. 壁紙の情報を入力してください

壁紙の幅 (cm)

壁紙の長さ (m)

2. 壁の大きさを入力してください

幅 (m)

高さ (m)

計算する リセット

必要な壁紙は、おおよそ ロールです

正解	壁紙の幅 (cm) : 52 壁紙の長さ (m) : 10.05 壁の幅 (m) : 2.2 壁の高さ (m) : 2.5
習熟度	レベル3

部屋の天井までの高さ
2.50メートル (m)

1ロールの壁紙
幅 : 52センチメートル (cm)
長さ : 10.05メートル (m)

数的思考力

コンポーネント

コンポーネントは数的思考力の問題に進む前に対象者が行う、最も基礎的な要素であるタスク

例1) いくつありますか

数の感覚に関する流暢さを求める問題項目。

画面上に表示された画像の類似物がいくつあるかを、1から20の数字を選びタップして答える。

(正解: 5)

いくつありますか？



- 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

例2) 一番大きい数はどれですか

数の感覚に関する流暢さを求める問題項目。

画面上に表示された4つの数字の中で、最も大きい数字を選びタップして答える。

(正解: 82)

一番大きい数はどれですか？

67.91

4.7

82

0.96

状況の変化に応じた問題解決能力（APS）

例1）ベストルート

必要なしごとを完了するための解決策（最速ルート）を見つけることを求める問題項目。

午前8時30分までに子どもを学校に送り届けて週1度の買い物に行き、最後に打合せのために午前9時30分までに帰宅するというシナリオで、インタラクティブな地図を使って、時間的制約を念頭に置きながら、3つのタスクを達成する最速ルートを計画する。

（地図上のマークされた場所をタップすると、ルートが破線で表示され、右下に総走行時間が表示される。）

右の地図と下のメモを見てください。次の質問について、地図上の行先をタップして、教えてください。

今は朝の8時です。あなたは下のメモにあげられたしごとを完了する必要があります。

これらのしごとを完了するための最短ルートを計画してください。時間の制約に注意すること。

終了後、矢印ボタンをタップして続けてください。やり直す必要がある場合は、「リセット」ボタンをタップしてください。地図の下に表示されている総走行時間は、ルートを計画するにつれて更新されます。

- ・ 午前8時30分までに子供を学校に送り届ける。
- ・ 毎週の食料品を買う（20分）。
- ・ 午前9時30分のミーティング前に帰宅する。



正解	以下の場所をタップする（この順番）：学校、A店、自宅
難易度	低～中程度

リセット

例2）ベストルート

新たに発生した問題に応じて必要なタスクを達成するための解決策を求める問題項目。

予定していた計画（A店に行く）を予期せぬ問題（水道管破裂と浸水）により変更しなければならなくなり、再度、タスクのリストと時間の制約を考慮しながら、別のルートを選択する。

右の地図と下のメモを見てください。次の質問について、地図上の行先をタップして、教えてください。

あなたはA店に行く計画を立てていました。

現在は8時30分です。あなたは子供を学校に送り届けたところです。あなたが選んだ店が水道管の破裂と浸水のためにお店を閉めたとのニュース速報を受け取ります。

残りのしごとを完了するために、ルートを調整してください。時間の制約に注意すること。

終了後、矢印ボタンをタップして続けてください。

- ・ 午前8時30分までに子供を学校に送り届ける。
- ・ 毎週の食料品を買う（20分）。
- ・ 午前9時30分のミーティング前に帰宅する。



正解	以下の場所をタップする（この順番）：B店、自宅
難易度	低～中程度

リセット

※PIAAC第2回調査エグゼクティブ・サマリー（仮訳）より抜粋

10年前と比較して、成人のスキルはほとんどの参加国・地域で低下または停滞

- 10年前と比較して、ほとんどの参加国・地域の読解力は横ばいか低下
- 数的思考力は向上傾向
- フィンランド、日本、オランダ、ノルウェー、スウェーデンは、3分野（読解力、数的思考力、状況の変化に応じた問題解決能力）全てで最も優れた成績
- 調査に参加したOECD加盟国においては、平均すると成人の5分の1近くが3分野全てで習熟度が低いと見なされるレベル1以下に分類
- 習熟度の低下は、主として最も習熟度の低い成人の低下によるもの

スキルの差が拡大し、取り残されるリスクのあるグループも存在

- 外国生まれの成人と本国生まれの成人との読解力の差が最も大きかったのはフィンランド
- 10年前と比較して、外国生まれの成人の読解力が向上したのはデンマーク、フィンランド、スウェーデンのみ。11カ国で低下
- いくつかの国では、移民が国全体の習熟度の変化に若干影響
- 教育機会の普及にもかかわらず、スキル水準はそれに応じて上昇していない。習熟度の低下は学歴が低い成人ほど大きく、広範囲に及ぶ
- 10年前から16～24歳の若年成人の読解力が向上したのは、ノルウェー、フィンランド、イングランド（英国）のみ
- 今回の調査では、女性の読解力は平均して男性よりも上回っている
- 家庭環境と社会経済的背景がスキルの習熟度に強く影響し、社会的・経済的流動性を妨げている

スキルは経済的・社会的なアウトカムにとって重要

- スキルは、学校教育以上に雇用の可能性と賃金に影響を及ぼす重要な要素
- スキルは、個人のウェルビーイング（自己申告による健康状態や生活満足度など）と市民参加（政治的効用感、信頼、ボランティア活動など）の両方に密接に関係
- 労働者のスキルや資格と、職務で求められるスキルや資格の適合は、機能し生産性の高い経済にとって不可欠

3分野の結果一覧

() 内は前回順位

() 内は前回順位

読解力			数的思考力			状況の変化に応じた問題解決力		
順位	第2回調査	平均得点	順位	第2回調査	平均得点	順位	第2回調査	平均得点
1 (2)	フィンランド	296	1 (2)	フィンランド	294	1	フィンランド	276
2 (1)	日本	289	2 (1)	日本	291	1	日本	276
3 (6)	スウェーデン	284	3 (5)	スウェーデン	285	3	スウェーデン	273
4 (7)	ノルウェー	281	3 (6)	ノルウェー	285	4	ノルウェー	271
5 (3)	オランダ	279	5 (3)	オランダ	284	5	オランダ	265
6 (8)	エストニア	276	6 (11)	エストニア	281	6	デンマーク	264
7 (9)	フランドル地方 (ベルギー)	275	7 (3)	フランドル地方 (ベルギー)	279	7	エストニア	263
8 (16)	デンマーク	273	7 (6)	デンマーク	279	8	フランドル地方 (ベルギー)	262
9 (13)	イングランド (英国)	272	9 (-)	スイス	276	9	ドイツ	261
10 (13)	カナダ	271	10 (25)	シンガポール	274	10	カナダ	259
11 (-)	スイス	266	11 (12)	ドイツ	273	10	イングランド (英国)	259
11 (17)	ドイツ	266	12 (18)	カナダ	271	12	スイス	257
13 (22)	アイルランド	263	13 (21)	イングランド (英国)	268	13	オーストリア	253
14 (11)	チェコ	260	14 (8)	チェコ	267	14	シンガポール	252
14 (4)	ニュージーランド	260	14 (10)	オーストリア	267	15	チェコ	250
16 (17)	アメリカ合衆国	258	16 (-)	ラトビア	263	16	ニュージーランド	249
17 (26)	フランス	255	17 (8)	スロバキア	261	16	アイルランド	249
17 (27)	シンガポール	255	18 (26)	アイルランド	260	18	フランス	248
19 (19)	オーストリア	254	19 (27)	フランス	257	19	アメリカ合衆国	247
19 (-)	クロアチア	254	20 (14)	ニュージーランド	256	19	スロバキア	247
19 (11)	スロバキア	254	21 (12)	ハンガリー	254	21	ラトビア	244
22 (13)	韓国	249	21 (-)	クロアチア	254	22	スペイン	241
23 (25)	ハンガリー	248	23 (20)	韓国	253	22	ハンガリー	241
23 (-)	ラトビア	248	24 (33)	スペイン	250	24	韓国	238
25 (31)	スペイン	247	25 (28)	アメリカ合衆国	249	25	イスラエル	236
26 (32)	イタリア	245	26 (30)	イスラエル	246	26	クロアチア	235
27 (29)	イスラエル	244	26 (17)	リトアニア	246	27	ポルトガル	233
28 (22)	リトアニア	238	28 (31)	イタリア	244	28	イタリア	231
29 (22)	ポーランド	236	29 (22)	ポーランド	239	29	リトアニア	230
30 (-)	ポルトガル	235	30 (-)	ポルトガル	238	30	ポーランド	226
31 (36)	チリ	218	31 (37)	チリ	214	31	チリ	218
OECD 平均		260	OECD平均		263	OECD平均		251

OECD平均よりも統計的に有意に高い国・地域

OECD平均と統計的な有意差がない国・地域

OECD平均よりも統計的に有意に低い国・地域

注1 この国際比較の順位については、平均得点に統計的な有意差がない場合も含む。多重仮説検定の有意水準調整は行っていない。
 注2 言語の問題からドアステップ・インタビューのみを実施した成人も含む。